**猪名川町記者発表資料**



**令和5（2023）年6月15日**

**梅雨の風物詩 モリアオガエルの卵塊85個を確認**

**【概　要】**

町内各所でモリアオガエルの産卵の情報が聞かれる梅雨真っただ中の6月13日に町山間部にある里山「杤原めぐみの森」の池では、産卵シーズンを迎えたモリアオガエルの卵塊85個を確認しました。

モリアオガエルは、兵庫県内の絶滅危惧種を掲載したレッドデータブックで「Bランク」に位置付けられ、絶滅の危機が増しているとして保護されています。カエルの仲間では珍しく樹上で暮らすモリアオガエルの産卵は、池に突き出た枝先に綿菓子のような白い泡状の卵を産み、一つの卵塊に300～500個の卵を産みつけ、１週間程でふ化しオタマジャクシとなって池に落ちます。6月に産卵のピークを迎えることから、梅雨の風物詩といわれます。

同町では、2年前より大阪府吹田市の生きているミュージアム「NIFREL（ニフレル）」によるモリアオガエルの卵塊の採集や展示に協力しており、今年も6月14日（水）より本町で採集された卵塊が期間限定で展示されており、孵化してオタマジャクシになるまでをご覧いただくことができます。

（添付資料）生きているミュージアムNIFREL プレスリリース資料

**【問合せ】**

* 杤原めぐみの森に関する問い合わせ

　　農業環境課（℡072－766－8709）

* 本記事のプロモーション・広報に関する問い合わせ

企画政策課広報戦略室（℡072－766－8707）

※ニフレルでの展示については施設に問い合わせください

　NIFREL（ニフレル）PR・広報担当（℡06－6876－2204）

▼6/13 モリアオガエル卵塊調査の様子

